

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	A-141	21-009
滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之		
題名 (原題/訳) Alcohol-related problems among college and university students in Norway: extent of the problem ノルウェーの大学生のアルコールに関する問題：問題の程度		
執筆者 Heradstveit O, Skogen JC, Brunborg GS, Lønning KJ, Sivertsen B.		
掲載誌 Scand J Public Health. 2021 Jun;49(4):402-410. doi: 10.1177/1403494819863515.		
キーワード	PMID	
アルコール使用、アルコール関連問題、アルコール使用障害識別テスト	31319770	
要 旨 <p> 目的：アルコール関連問題を推定するために、2010年から2018年にかけて専門学生及び大学生の大規模例数によるアルコール関連問題の傾向を調査した。 </p> <p> 方法：ノルウェーの18-35歳のフルタイムの大学生を対象とした2018年2月6日から4月5日に行われた匿名のオンラインアンケートによる全国健康調査 (SHoT) データを用いた。また、アルコール使用障害識別テスト (AUDIT) を用いてアルコール使用の危険性、有害性および依存性を0-40点で評価した。低い又はリスク無を基準とする多項ロジスティック回帰分析にて、性別や年齢層での危険性、有害性、依存性の相対リスク比 (RRR) を推定した。人口統計学的特性と潜在的アルコール関連問題との関連について多項ロジスティック回帰分析も行った。基準を満たした162,512例中50,054例が回答し (回答率31%)、除外となった615例を除く49,439例を対象とした。また、傾向分析のためにSHoT2014とSHoT2010のデータセットも使用した。 </p> <p> 結果：男子学生の半数以上 (52.8%) 及び女子学生の10例中4例 (40.1%) が、危険性、有害性、依存性のアルコール使用を報告した。女性に比べて男性は危険性 (RRR=1.57、95%CI: 1.51, 1.63)、有害性 (RRR=2.45、95%CI: 2.23, 2.70)、依存性 (RRR=2.73、95%CI: 2.38, 3.13) のリスクが高かった。若い学生ほど危険性と有害性の割合が高く、依存性の割合は年齢層による違いはなかった。いくつかの人口統計学的変数がアルコール使用と関連していた。傾向分析の結果、学生の危険性、有害性、依存性の割合およびAUDIT平均得点は、過去8年間、比較的安定していることが明らかになった。 </p> <p> 結論：ノルウェーの大学生にとってアルコールの使用は重要な健康上の懸念であり、本研究はアルコール関連問題の高い発生率と本集団における問題への対処の必要性を認識した。 </p>		